

公表

事業所における自己評価結果

令和7年 2月 22日

事業所名 カラフルビーンズ

公表日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓		分散して図書館や体育館を利用している。雨天等で屋外が利用できない時はやや手狭に感じる時があるため、近隣の施設を利用し、分散して過ごせるよう工夫しています。	グループに分けてプログラムを行ったりなど、密にならないように、工夫していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	✓		適切な配置になるように調整、確認して支援にあたっています。既定の人数よりも多く（児童2：職員1くらい）配置しております。	送迎時に手薄になることがある場合、親御さんに協力してもらい送迎をお願いしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓		視覚支援や見通しのつくように配慮している。児童の障害度合いに応じて視覚的に分かりやすいように工夫しています。	個々の利用者の特性に合わせて配置を考えていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓		活動プログラムに合わせ、机の配置等を変えて対応している。毎日清掃を行い、チェックリストに記入して確認して清潔に努めています。	様々な活動を広げていくために配置など検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		相談室などを個別に使用したり、パーティションを使用しその子どもに応じた場所や環境を提供するようにしている。	個別活動も今後継続していく
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	✓		職員会議で話し合っている。	今後も、職員一丸となり取り組んでいきます
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓			保護者向けの集計が終わった後、職員会議などで報告し、業務が改善していくように意見交換して改善に努めます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		ミーティング等で、意見交換を行い、月に一度は職員全体会議で改善すべき点を話し合う機会を設けている。	今後も職員全体で、意見交換をしていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	✓		第三者委員会の評価は行ってないが、地域との交流の機会を設けて風通しの良い環境になるよう日々取り組んでいる。	第三者の外部評価を検討中。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓		法人内での研修もあるが、外部での研修も職員に告知しています。自立支援協議会等、参加出来るものには参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓		毎日の活動プログラムを作成し、実施している。ホームページにて毎月公表されています。	今後も活動プログラムが固定化されないように計画立案を職員一丸となって取り組んでいく
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	✓		保護者と年に一回は面談し詳しくお話を聞かせていただいている。送迎時やイベント時等、子どもにも意向を聞きアセスメントを行っている。	個々の利用児童のニーズを検討したうえで支援計画を考えていく
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓		職員会議で個別支援会議を行い、情報共有し、意見を求めている。その子に応じた計画を作成するようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓		ケース会議、個別支援会議で共有している。欠席者には回覧し、情報共有している。活動プログラムにも組み込んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓		フォーマルなアセスメントを受けとっている子や受け取っていない子もいる。インフォーマルなアセスメントは面談で行っている。	フォーマルなアセスメントを見せていただき、本人が今以上に質の高い生活が出来るように支援の幅を広げていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓		面談やアセスメントの結果から具体的な内容を盛り込んでいます。今年度より5領域を全利用者に盛り込んで計画を作成しています。	具体的な支援内容が、固定化されないように日々職員間で共有して意見を出していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		日々の活動プログラムを各職員で考えながら決めています。	毎月プログラム、曜日プログラムを作成して取り組んでいる。特定のスタッフ中心の立案とならないように会議等を活用して広げてい
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		こどもにもリクエストを聞いたり、新しいものを取り入れることを意識しています。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	✓		その時の状況や、人に合わせて個別の時間を多くとったり、出来るだけ全員が参加できるように配慮している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓		日々のミーティングにて共有して確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓		振り返りは必ず実施して、職員に共有するようにしています。	その日中には振り返りを行えていないため、振り返りや気づいたことなど次の日や職員会議等で話し合っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓		個々の支援記録を支援計画内容をもとに記入しています。経過記録も記入しています。	支援の検証を行ってまいります。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		定期的にモニタリングを実施し、必要なら個別支援計画書の見直しを行います。	必要に応じて今後も見直ししていく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	✓		ガイドラインの組み合わせ支援を行っています	移行支援については今後はもう少し広げたい
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	✓		自分で選択が行えるように待ったり促したりしています。	今後は選択の幅を増やせるようにしていきます
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓		児童発達支援管理責任者が出席したり、よく知る担当者が出席しています。	今後も継続していく。 新人職員も、学習の為に参加していく
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓		連携しています。	必要に応じて、受診に同行して主治医とお話をさせてもらっています。今後も継続して行きます
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	✓		送迎時や電話や書類などで連絡調整等、適切に行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	✓		様子を見せてもらいに行ったり、職員と情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	✓		移行支援会議に出席して、情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	✓		近隣の児童発達支援センターと常に連携を取っています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	✓		他放課後等デイサービスと合同でプログラム活動を行ったり、餅つき大会等、子ども食堂で地域お友達と交流する機会を設けている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	✓		参加している。	今後も地域の課題を自立支援協議会上げていく等、職員間で話し合っていきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		送迎時にお話をしたり、連絡帳で状況をお伝えしている。面談やアセスメント聞き取り時に状況や課題の共通理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		ペアレントトレーニングの研修は行っていないが、日々、保護者の相談にのって、情報提供を行っている。	今後は、研修なども検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓		説明を行っている	今後も丁寧に説明責任を果たしていく
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓		個別支援計画を作成した後、必ず家族に説明し確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	✓		書類を見ながら一つ一つ丁寧に説明するようにしています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		保護者からの相談にはその都度その時に応じています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだいで交流する機会を設ける等の支援をしているか。	✓		保護者会を年に数回開催している。また、子ども食堂を毎月1回開催し、家族で参加してくれており、きょうだいや保護者同士の交流の場になっている。夏祭り、秋祭り等を開催して交流の場となっている。	今後も交流できる場所や行事を開催していきます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		苦情に対し、迅速に適切な原因・対策を協議し改善に努めています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓		連絡帳等の他にはホームページを通し、活動の内容や様子を発信しています	個人情報保護に気を付けて今後も取り組みなど発信していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		個人情報の取り扱いには十分な注意を払っています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		保護者との情報やり取りは行っている。子供とのやり取りは、絵カードや文字盤、手話などを使って配慮している。	今後も配慮できるように、職員も学習していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓		地区で行うお祭りなどにも参加させていただいたり、子ども食堂では地域の方にも参加いただけたりしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		各種マニュアルを策定しています。訓練の実施をしています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		定期的に避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	✓		面談時、服薬状況やてんかんなどの事は保護者に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		個別支援会議で保護者に確認。 年に1度アレルギーアンケートを取っている。周知されており、おやつ等の購入する物への配慮、注意もされています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		安全計画を作成しています	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓			安全計画を今後は、分かりやすくHPに開示していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		ヒヤリハットを積極的に出すようにし、職員会議で共有して、検討している。	すべての職員がヒヤリハットを常に意識できるように、再発防止に努めるように努力します
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		委員会で話し合っ全体会議で研修を行っている。	年3回開催している。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	✓			該当児童なし	